

年度 学修成果シート

学校教育学部 ○○グループ

○○ ○○

目標

今年度の目標

大学卒業時の最終目標を確認しながら、今年度の目標を入力しましょう。
具体的な目標を立てると、達成度の評価がしやすくなります。教員養成スタンダードを参考にするといいいでしょう。

(参考) 目標を立てるときに考えること

- ・努力や時間を要すること、今からすぐに始められることは何か（達成に時間が掛かるなら、1年次から意識的に取り組む必要があります）
- ・達成する上で助け／妨げとなりそうなことは何か（支援を受けたり、達成を遅らせる原因を解決したりすることで、その目標の達成時期が早まるかもしれません）

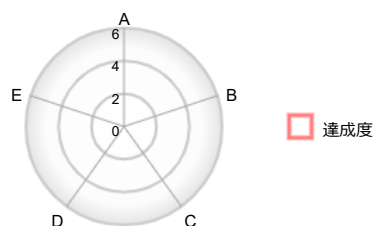
目標に対して努力し続けることは重要ですが、それを立てたときには思いもしなかった困難があるかもしれません。そのような場合、即時に目標を見直し、修正しましょう。

達成したい内容

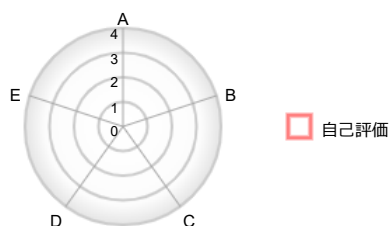
活動成果

全体

達成度



評価

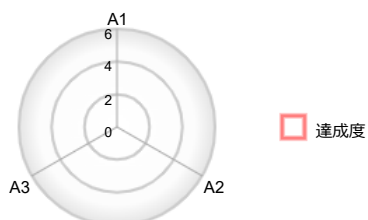


目標領域		達成度	自己評価
A	学び続ける教師	0.0	
B	教師としての基本的素養	0.0	
C	子ども理解に基づく学級経営・生徒指導	0.0	
D	教科等の指導	0.0	
E	連携・協働	0.0	

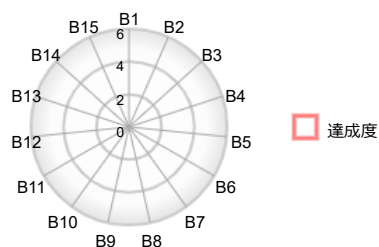
目標領域

達成度

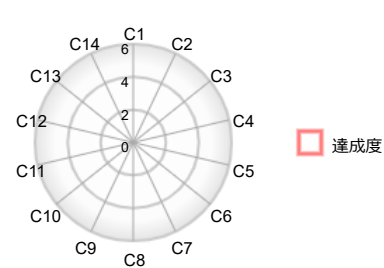
学び続ける教師



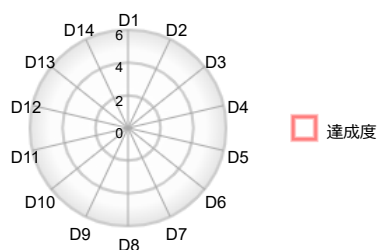
教師としての基本的素養



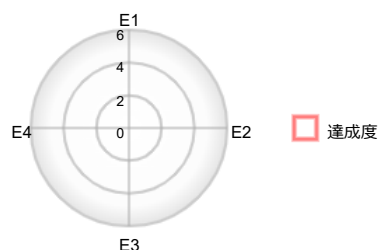
子ども理解に基づく学級経営・生徒指導



教科等の指導

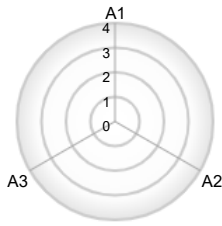


連携・協働

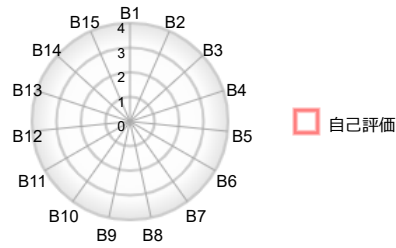


評価

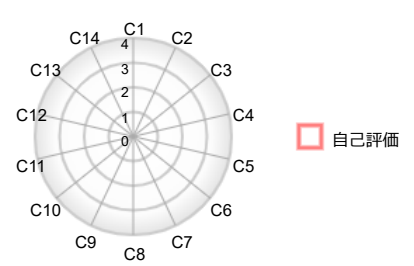
学び続ける教師



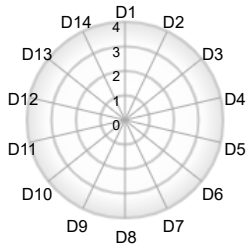
教師としての基本的素養



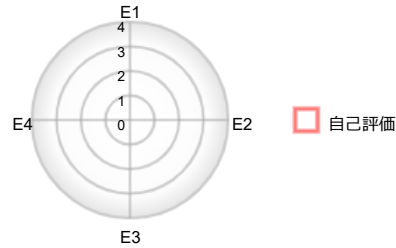
子ども理解に基づく学級経営・ 生徒指導



教科等の指導



連携・協働



学び続ける教師

目標分類		到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
A1	常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	・自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる ・自らの教育実践を振り返り、実習ノートやポートフォリオで成果や課題を整理することができる ・大学の授業を通して自己の教師像を絶えず捉え直すことができる - など	0.0		
A2	研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる	・知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている ・自己の研究テーマを持ってゼミに主体的に参加している ・研究に必要な情報・資料を収集し、活用することができる - など	0.0		
A3	長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる	・個々の授業科目等が大学での4年間の学びや将来の教師の仕事にどのように役立つかを意識して自らの成長を図ることができる ・自己の理想的な教師像を具体的に述べることができる ・教員養成スタンダード等を手がかりに、教師の生涯にわたる成長という視点から、自己の現状と課題を述べる述べる - など	0.0		

教師としての基本的素養

目標分類		到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
B1	言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている	・場面や状況に合った服装や言葉づかいができる ・日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている ・明朗かつ積極的に物事に取り組んでいくことができる ・配慮を必要とする人に適切に対応しようとする姿勢を持っている - など	0.0		
B2	集団での活動において、リーダーシップ	・集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる	0.0		

	を発揮することができる	・ 集団内の多様な意見に耳を傾け、集団をまとめることができる など			
B3	自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる	・ 教師のストレスをめぐる問題（「バーンアウト」等）とその要因・対処法について知っている ・ ストレスを発散するための自分なりの方法を身につけている ・ 困難な事態に対しても問題解決に向けて粘り強く取り組むことができる ・ 自身の健康を考えて日常的に適度な運動を行っている など	0.0		
B4	日本及び外国の文化・歴史・環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている	・ 日本及び外国の文化・歴史に興味を持ち、書物を読んだり、旅行をしたりしている ・ 環境問題や平和問題に関心を持ち、それらについて調べたり、友人等と話し合ったりしている など	0.0		
B5	教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している	・ 教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる ・ 教師の服務事項（職務上・身分上の義務）について知っている など	0.0		
B6	教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる	・ 教育基本法と教育三法（「学校教育法」、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」、「教育職員免許法及び教育公務員特例法」）の主な内容を知っている ・ 近年の中央教育審議会の主な答申等の内容を知っている ・ 全国学力・学習状況調査の最新の結果を知っている など	0.0		
B7	教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる	・ 教育の理念・歴史・思想について調べたり、それらに関する書物を読んだりしている ・ 教育の理念・歴史・思想に関する知識に基づき、現代の教育課題について自分なりの意見を持っている など	0.0		
B8	教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している	・ 学習指導要領や学習指導要領解説（総則編）の主な内容を知っている ・ 子どもの実態や地域の特性を生かしたカリキュラム開発の具体例を挙げることができる など	0.0		
B9	子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる	・ 子どもの模範となるような言葉づかいができる ・ 子どもが理解しやすい言葉づかいができる など	0.0		
B10	学校生活の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫を行うことができる	・ 授業において教材の内容や提示の仕方を工夫することができる ・ 子どもの興味・関心・意欲を高めるような褒め方ができる など	0.0		
B11	人権を尊重しながら子どもにかかわることができる	・ 子どもの人格を傷つけるような言動を行わない ・ 子どもの多様な考え方や文化を尊重できる ・ いかなる場合においても体罰を行わない など	0.0		
B12	子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる	・ 文部科学省や教育委員会の発行する安全管理・指導に関する通知やマニュアルを読んでいる ・ 屋内外で子どもが安全に活動できるよう事前に予防策を講じることができる など	0.0		
B13	素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる	・ 積極的に実習指導教員や他の実習生に相談・質問することができる ・ 実習指導教員等の指導や助言を素直に受け入れることができる など	0.0		

B14	主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる	・ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトなど、基本的なアプリケーションソフトを活用することができる ・様々なデジタルコンテンツを用いた教材研究が行え、授業でのICT活用のイメージを持っている ・著作権、肖像権、ウイルス対策など、基本的な情報モラルに関する知識と対策方法を知っているなど	0.0		
B15	自らが学校組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している	・学校の主な校務分掌の内容について知っている ・各学校の教育目標や重点課題の重要性とその機能を知っているなど	0.0		

子ども理解に基づく学級経営・生徒指導

目標分類		到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
C1	子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる	・子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知っている ・発達の個人差に配慮し、子どもを理解することができるなど	0.0		
C2	子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる	・子どもをより良く理解するため、子どもの生活環境について実習指導教員と話している ・子ども一人ひとりの生育歴を、指導要録や保護者面談等により把握することの重要性を知っているなど	0.0		
C3	子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる	・休み時間や放課後の様子から子ども同士の様々な関係性を把握することができる ・学級内で生じたトラブルの原因を考える際に、子ども同士の関係性を考慮することができるなど	0.0		
C4	公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわるることができる	・子どもに分け隔てなく公平に接することができる ・子どもの言葉をじっくりと聴き、共感的に理解することができるなど	0.0		
C5	特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる	・特別支援教育の意義や理念について知っている ・身体障害、知的障害や発達障害（LD、ADHD、自閉症スペクトラム）などの特性について知っている ・障害のある子どもに対する基本的な学習支援方法を知っている ・子どもの生活場面に即して、障害理解のための指導を行うことができるなど	0.0		
C6	学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている	・クラスで学級目標を立てることの意義について知っている ・学級担任の一日の仕事の流れを把握している ・子どもに対する給食指導や清掃指導を行うことができるなど	0.0		
C7	学級経営案の意義を理解し、作成することができる	・学級経営案を立てることの重要性とその役割について知っている ・学級経営案の作成にあたり、各学校の教育目標や重点課題、児童の実態を踏まえることの必要性を知っているなど	0.0		
C8	子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる	・教育において子どもからの信頼を得ることの意義を知っている ・子どもの名前を早く覚えたり、子どもとの約束を守ったりするなど、子どもとの信頼関係を築くための具	0.0		

		体的な取り組みを行っている など			
C9	教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる	・教室内のそれぞれの掲示物にどのような教育的意図があるかを知っている ・班学習等の学習場面に応じて座席配置を工夫することができる など	0.0		
C10	子どもの基本的生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる	・整理整頓について指導することができる ・時間を守り規則正しい生活を送ることについて指導することができる など	0.0		
C11	学校の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる	・学級活動での話し合い活動において、子どもが自分たちで決まりを作れるよう指導することができる ・集団活動における約束や決まりを守ることの重要性を子どもに説明できる など	0.0		
C12	子どもの問題行動の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる	・子どもの暴力行為の要因を様々な観点から考えることができる ・学級で生じたいじめへの具体的な対応方法を知っている など	0.0		
C13	教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている	・予防的な教育相談や問題解決的な教育相談の特徴を説明できる ・傾聴、受容、明確化等の教育相談で用いられる基本的な姿勢を身につけている など	0.0		
C14	キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている	・学校におけるキャリア教育の必要性を説明できる ・小学校段階でのキャリア教育の具体的な場面を挙げることができる など	0.0		

教科等の指導

目標分類		到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
D1	学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している	・各教科等における各学年の目標と内容を知っている ・「学校の教育活動の全体で行う道徳教育の目標」及び「道徳の時間に行う道徳教育の目標と内容」を知っている ・特別活動における各領域の目標と内容を知っている など	0.0		
D2	教科等の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる	・全ての教科等の内容について学習指導要領に沿って指導するに十分な知識を持っている ・得意な教科等を持ち、特定の分野についての深い知識を持っている ・専門的知識を活かして学習指導案を作成することができる など	0.0		
D3	教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる	・学習指導要領において求められる学習内容とのつながりを意識し、教科書の内容を捉えることができる ・各授業の目標を踏まえ、それに適した教材を選択することができる など	0.0		
D4	子どもの実態や地域の特徴に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる	・地域の特性を生かした教材開発の具体例を挙げることができる ・子どもの実態に合わせて既存の教材・教具を自分なりにアレンジすることができる など	0.0		

D5	主な学習指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる	・一斉指導・グループ別指導・個別指導の長所と短所について知っている ・グループ別指導を活かすことのできる授業場면을挙げることができる など	0.0		
D6	各教科等の内容に即した指導方法について理解し、活用することができる	・体験活動を取り入れた授業の具体例を挙げることができる ・実技の習得を目指した授業における指導上の留意点を知っている ・観察・実験を用いた授業における指導上の留意点を知っている など	0.0		
D7	板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている	・正しい書き順で丁寧に板書を行うことができる ・子どもの主体的な学習を促すために発問を工夫することができる など	0.0		
D8	学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる	・子ども一人ひとりの得意分野を見つけ、それを伸ばすような指導を行うことができる ・机間指導等を通じて子どもの習熟度に合わせた個別指導を行うことができる など	0.0		
D9	子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習を促すことができる	・子どもの多様な反応を想定して、協同的な学習を促す学習指導案を作成することができる ・授業において話し合い活動を効果的に取り入れることができる など	0.0		
D10	授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる	・子どもの疑問やつまづきを活かして授業を展開することができる ・授業において子どもの予期せぬ反応を大切に、臨機応変に活かすことができる など	0.0		
D11	各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる	・前後の学年で扱う内容とのつながりを意識するとともに、各教科の年間指導計画の内容を把握している ・年間指導計画を確認した上で、単元計画・本時案を立てることができる など	0.0		
D12	単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる	・学習指導案を作成する際に子どもの習熟の程度を把握している ・単元の目標や計画を明確にしたうえで、学習指導案を作成することができる など	0.0		
D13	授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる	・日常的に自らの授業を振り返るとともに、子どもの反応にも耳を傾け、さらなる改善につなげることができる ・授業後の反省・検討会において意見を出したり、他者の意見を受け入れたりして、授業改善に活かすことができる など	0.0		
D14	子どもの学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる	・目標準拠評価と集団準拠評価の違いについて知っている ・形成的評価など、指導と評価の一体化のための方法について知っている など	0.0		

連携・協働

目標分類	到達目標	達成度	評価根拠	自己評価
E1	子どもに関わる情報を他の教師と共有する	・教員間で子どもの情報を共有すること（報告・連絡・相談）の必要性を説明できる	0.0	

	る姿勢を持っている	・クラスの子どもの習熟度などについて実習指導教員と話している など			
E2	様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている	・学習指導場面において積極的に実習指導教員の補助ができる ・実習校や各活動学校園の教師と協力して学級活動や学校行事に取り組むことができる など	0.0		
E3	学校と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している	・保護者・地域との連携が必要な場面の具体例を知っている ・特別支援教育コーディネーターや児童相談所の専門家との連携が必要な場面の具体例を知っている ・小学校と幼稚園や中学校との連携に関する知識を持っている など	0.0		
E4	保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている	・学校に対する保護者・地域の要望の背後にはどのような期待があるのか考えることの重要性を知っている ・保護者との会話の重要性や保護者と積極的にかかわることの意義を知っている ・学校と保護者・地域の立場や視点の違いを尊重することの必要性を説明できる など	0.0		

振り返り

中項目1（省察的実践）

「省察的実践」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる

「省察的実践」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料(ファイル)	

中項目2（研究を通した専門性向上）

「研究を通した専門性向上」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる

「研究を通した専門性向上」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目3（長期的視野に立つ職能成長）

「長期的視野に立つ職能成長」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる

「長期的視野に立つ職能成長」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目4（社会人としての素養）

「社会人としての素養」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。
・言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている
・集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる

- ・自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる
- ・日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている

「社会人としての素養」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目5（教師としての素養）

「教師としての素養」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している
- ・教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる
- ・教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる
- ・教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している
- ・子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる
- ・学校生活（園生活）の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫（活かす工夫）を行うことができる
- ・人権を尊重しながら子どもにかかわることができる
- ・子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる
- ・素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる
- ・主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる
- ・自らが学校（園）組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している

「教師としての素養」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目6（子ども理解）

「子ども理解」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる
- ・子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる
- ・子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる
- ・公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもとかわることができる
- ・特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる

「子ども理解」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目7（学級経営）

「学級経営」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている
- ・学級経営案の意義を理解し、作成することができる（幼稚園教員には該当しません）
- ・子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる
- ・教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる（保育室の掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活しやすいよう環境を整えることができる）

「学級経営」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目8（生徒（子どもの）指導）

「生徒（子どもの）指導」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもの基本的生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる

- ・学校（園）の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる
- ・子どもの問題行動（気になる行動）の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる
- ・教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている
- ・キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている（幼稚園教員には該当しません）

「生徒（子どもの）指導」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目9（内容理解）

「内容理解」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している（遊びの意義を含め、幼稚園教育要領の主な内容を理解している）
- ・教科等の内容（保育内容）に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる
- ・教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる
- ・子どもの実態や地域の特徴に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる

「内容理解」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目10（授業方法・指導技術（保育方法））

「授業方法・指導技術（保育方法）」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・環境を通じた指導方法について理解し、活用することができる（幼稚園教員のみ求められます）
- ・主な学習指導方法（保育方法）の長所と短所を理解したうえで、学習（保育）の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる
- ・各教科等の内容（保育内容）に即した指導方法について理解し、活用することができる
- ・板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている（言葉の掛け方など保育を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている）
- ・学習内容の習熟の程度（子どもの興味関心）などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる
- ・子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習（経験や学び）を促すことができる
- ・授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる（子どもの状況や発言に配慮し、柔軟な保育の展開を試みることができる）

「授業方法・指導技術（保育方法）」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目11（授業（指導）計画）

「授業（指導）計画」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる（長期の指導計画の内容を理解し、短期の指導計画に反映させることができる）
- ・単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる（子どもの実態を踏まえ、指導案を作成することができる）

「授業（指導）計画」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目12（授業（保育）研究）

「授業（保育）研究」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・授業研究（保育研究）の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる

「授業（保育）研究」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目13（学習（保育）評価）

「学習（保育）評価」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもの学習（育ち）に対する主な評価の方法を理解し、学習指導（指導）に活かすことができる

「学習（保育）評価」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目14（他の教師との連携・協働）

「他の教師との連携・協働」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・子どもに関わる情報を他の教師と共有する姿勢を持っている
- ・様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている

「他の教師との連携・協働」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

中項目15（保護者・地域等との連携・協働）

「保護者・地域等との連携・協働」に対し、コメントや根拠資料をつけましょう。

- ・学校（園）と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している
- ・保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている

「保護者・地域等との連携・協働」に対するコメント	
根拠資料（活動記録）	
根拠資料（ファイル）	

リフレクションミーティングを終えて

コメントや感想等を入力しましょう。

全体を通しての自己評価	
教員からのコメント	
他の学生からのコメント	
コメントに対する感想等	

年間の振り返り

今年度の自分の成長について振り返りましょう。

ベストレポート1	
ベストレポート1を選んだ理由	
ベストレポート2	
ベストレポート2を選んだ理由	

考えたこと、新たに身に付けたこと	
自分の短所や苦手なことで克服したこと	
現時点でのめざす教師像	
第三者から見た長所・短所	
次年度に取り組みたい自己の課題	
メモ	